
ユメの世界

風矢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユメの世界

【Nコード】

N3404Y

【作者名】

風矢

【あらすじ】

そこは夢のような世界でした。

ずっとそこにいたかったけどそれは出来ません。

私はまだ現実でやることがあったのですから。

そこは夢のような世界でした。

ずっとそこにいたかったけどそれは出来ません。

私はまだ現実でやることがあったのですから。

「ちこくだーっ！」

はい、現在の時刻11時59分です。

待ち合わせの時間は12時です。

待ち合わせ場所まであと20分くらいかかります。

これはまずい。

だけれど猛ダッシュしても間に合いそうにありません。

せっかく憧れの人とのデートまで漕ぎ着けたのに！

とは言ってもただ昼食を一緒にするだけなんですけどね。

しかし、デートはデートです。

このデートが終わって、そのまま告白すればきつとその先に待つ

のは薔薇色の人生のほずです。

このチャンス逃してはいけない。

なのに！

どうして、こんな時に限って目覚まし時計が止まっているの！？

だめだ、こんな時は素数を数えるんだ。

ふと部屋にころがっているなにかが目に留まりました。

そんな現実逃避を繰り返しても時間は巻き戻ってくれません。

そんなこんなで予定通り、19分遅れで到着となったのでした。

これほど遅れてきた私を、彼は困った笑顔ではありましたが許してくれたのです。

これこれ、こういうところが萌、なんでもありません。

さて、とはいえずはこの汚名を挽回するところから始めないと
いけません。

あれ？なんだかおかしいような・・・ま、いつか。

それは見慣れたものでした。

気を取り直して彼の方を見ると、なんだか慌しく携帯でメールを打っているようでした。

待ち合わせ場所からそう離れていないレストランに着くまでそれは続きました。

レストランに着き、さあ注文だ、というところで突然私の携帯が鳴り出したのです。

いえ、正確には見慣れた人だったモノでした。

非通知ではありましたが、私には心当たりがありました。

このところ毎日のようにかかってくる電話があったのです。

最初は無言だけだった電話はいつしか奇妙な雑音が入ったり、

気味が悪くなってきたので何度も着信拒否にしました。

それは確か、憧れていた人だったように思います。

しかし、それは何度もかかってくるのです。

なにもこんな時にといい、すぐに電話を切りました。

でも、電話はまたすぐにかかってくるのです。

ああ、これじゃあまた彼に呆れられてしまう。

そつと彼の方を伺うと、なんだか青ざめた表情で私を見つめていました。

正確には、私の携帯を。

結局、その日の昼食は気まずい雰囲気のまま終わってしまいました。

後日発覚したことです、彼には恋人がおり、

浮気（私のことだ）がばれて右往左往していたそうです。

けれども、もうそんなことを気にする必要はまったくありません。

彼はもう絶対にその恋人に会うことも、話すこともないので
5。

私は部屋にころがっていた彼のクビをそつと抱きしめ呟くのです。

「これで、やっと薔薇色の人生が始まるのね。」

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3404y/>

ユメの世界

2011年11月8日05時23分発行